

看護未来塾 第19回 勉強会 アンケート集計結果

参加者 78名(Max)

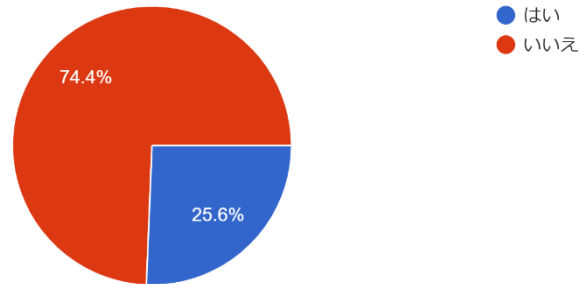
全体討議参加者 68名

回収率 57.3% (39/68)

n=39

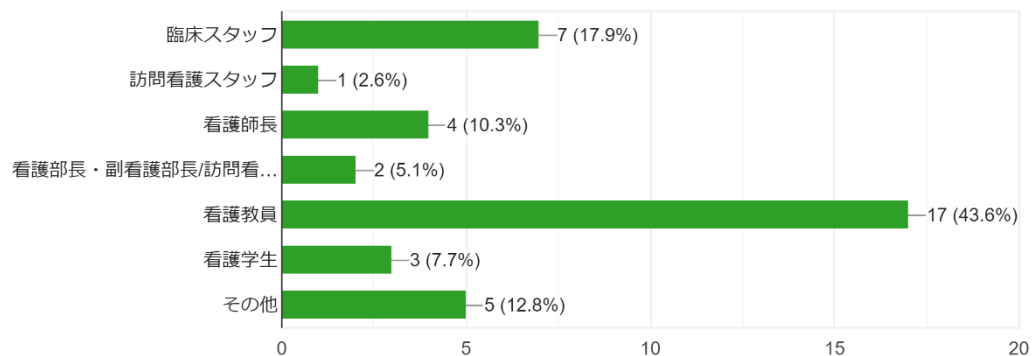
Q1 看護未来塾の塾員ですか

39件の回答



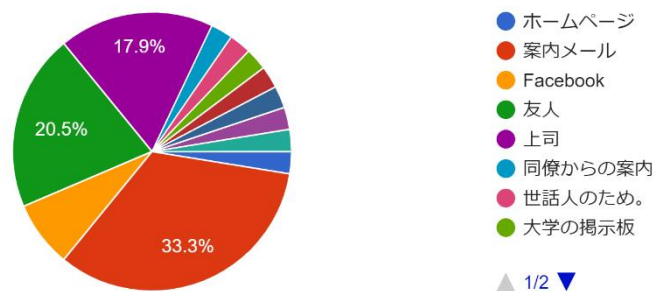
Q2 ご所属での立場を教えてください

39件の回答

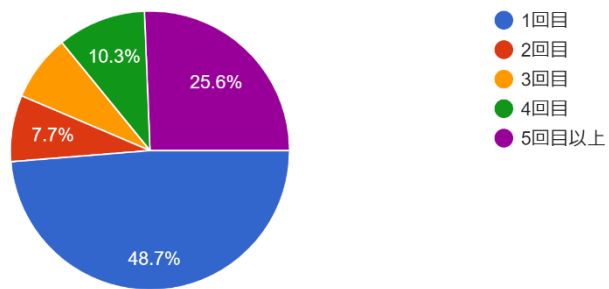


Q3 今回の勉強会が開催されることをどのように知りましたか

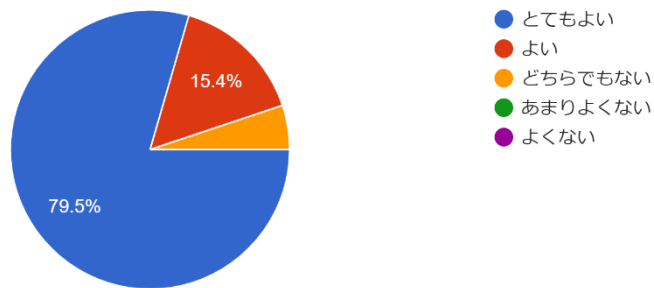
39件の回答



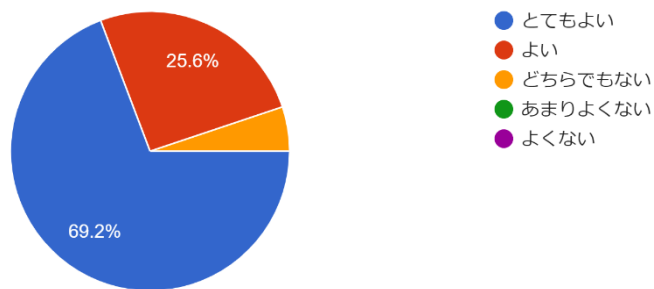
Q4 看護未来塾勉強会への参加は何回目でしょうか
39件の回答



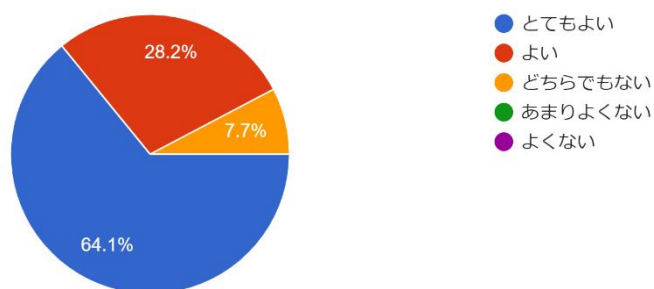
Q5 第19回勉強会の趣旨についてあてはまるものを選択してください
39件の回答



Q6 話題提供①基礎教育で看護を学ぶけど
39件の回答

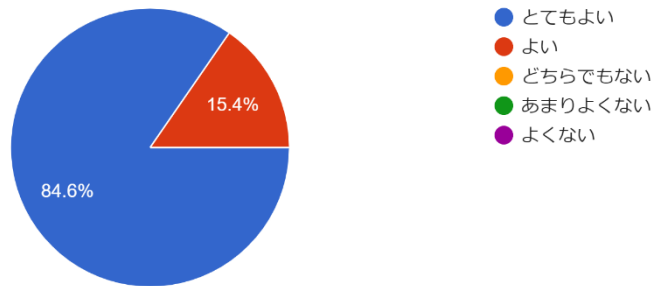


Q7 話題提供②臨床現場の看護のちから
39件の回答



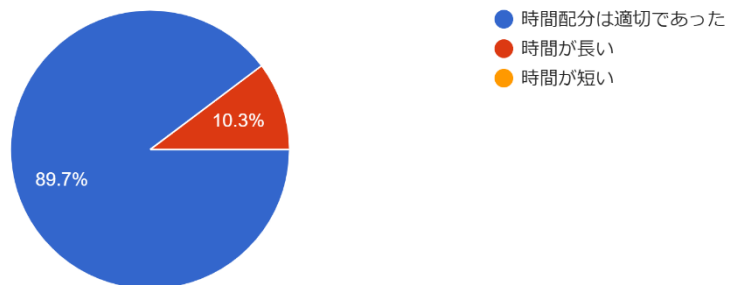
Q8 話題提供③「看護」&「看護もどき」

39件の回答



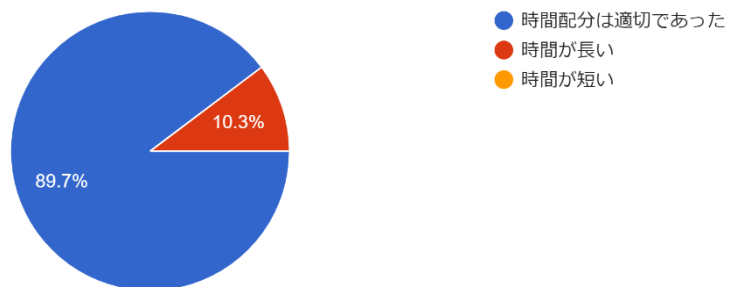
Q9 グループディスカッションの時間配分について当てはまるものを選択してください

39件の回答



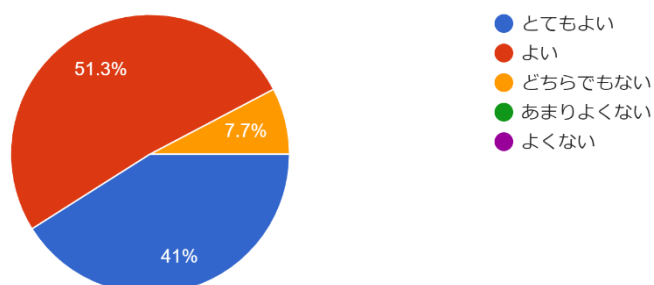
Q10 全体討論の時間配分について当てはまるものを選択してください

39件の回答

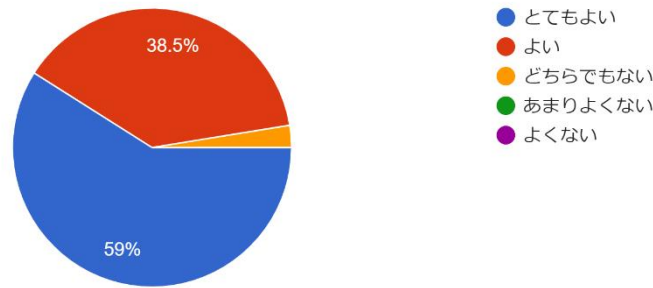


Q11 全体討論会の内容について当てはまるものを選択してください

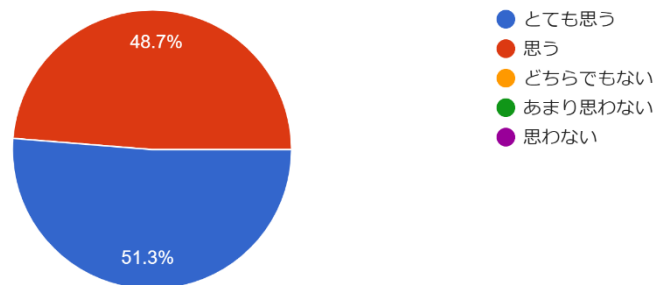
39件の回答



Q12 リモート勉強会の開催方法について当てはまるものを選択してください
39件の回答



Q13 また、看護未来塾に参加したいと思いませんか
39件の回答



Q14 今回の勉強会に関して、感想・ご意見などございますか

- 医師の働き方改革、タスクシフトが叫ばれる時に、時宜を得たテーマだったと思います。
- テーマを見て、普段から感じているところであり、でも今の時代では仕方がない状況なのかと思っていましたが、勉強会でご意見を伺い、もやもやした気持ちを皆さんがお持ちだったのだと思いました。患者さんに触れる機会が少ないと思います。パルスオキシメーターで脈を数えてしまう看護師もいるので、根本的に触れることが減っていると思います。時間はかかりますが、丁寧に患者さんと関わる看護を学生に見てほしいと思いました。
- 学生実習を受け入れることで、学生のキラキラしたまなざしが私たちの看護の在り方に気づかされています。触れる看護を通して、そこに看護があることを一緒に感じ、言葉で伝えることを大切にしていきたいと思います。
- 看護もどきの中に看護があることに気が付くことも大切かと思いました。業務に追われて大変だったねと話すスタッフに、そこに看護もあったよねと投げかけて、気づかせることが必要だと思いました。
- 私は現在修士課程で学んでおりますが、臨床で働いていた際、多忙や業務量の多さにより自分の看護が、「看護もどき」になっていないか、葛藤することがありました。その時に、業務+α、何か患者さんにできることはないか考えながら日々の業務にあたっていました。本日の勉強会を通して、看護の力で患者さんをよくすることが大事であることを改めて感じ、看護師として何ができるのかを考えていきたいと思いました。
- 長く看護を経験している方々の話を聞いたり、ディスカッションしたりできて貴重な経験となりました。看護を提供して、患者からのエネルギーやフィードバックをもらえることが、看護師を継続する原

動力になることを学びました。看護もどきであると、それらを与えることが難しいため、やりがいが無くなり、離職につながるのではないかと考えます。

- 今回の勉強会に参加して改めて、自分の看護が看護もどきにならないように患者に寄り添い続けていきたいと思いました。
- 日頃から気になっていたことについて話題提供をベースにディスカッションし考えることができ非常によかったです。基礎教育として何を強化する必要があるのか課題も見えてきました。担当科目の中で何ができるのか検討して今後につなげたいと思います。
- 大変興味深いテーマでした。「これって看護なの？」「看護はどこ？」など危機感を持つ場面が多いです。しかし年齢も重ねていくあいだに、諦めてしまうことが増えていたように思います。「出る杭はやはり打たれる」と、今まで何度か思いましたが、杭の出方が足りなかったのかもしれないですね。今日は参加させて頂き、頑張る気持ちになりました。
- 看護職として問題意識は共有できているのだということがわかり少し安心しました。しかし、なぜ解決に向かえないのかという点にもっとエネルギーを使う必要があるとそうだと感じました。
- とても興味深い内容でした。しかし、現場がこうなったのは制度の問題、管理者からの指示でこうなってきました。
- 現場で闘うという言葉が出ましたが、ネガティブなイメージだし。会に参加されている先生方はそう、言いますが、つぶされるんです。本当に。CNSのような実践、ケアの専門家をも診療報酬に使うだけですから。
- とても興味深く参加させていただきました。同じような思いをされていることを実感でき心強く思いました。ただ、全体的に教育の立場の方が多く感じました。どれぐらいの比率だったのかも知りたいところではあります。臨床の場を変えていくためには、臨床の立場から声、新人や中堅スタッフや管理者など様々な立場の方々を巻き込んで、リアルな声を集め、具体的にどう行動すれば変化を起こせるのか、起こせたのかの手がかりがいただける会へとつないでいただけたらと思いました。
- 問題提起も明確だったのでグループディスカッションも弾んだと思います。看護必要度やアセスメントシートなど看護業務の密度が濃くなっていく中で、看護管理者も看護本来の仕事が見えにくく、疲れ果てているのではないかと思います。看護の価値が見えにくい中で、患者さんも看護師に期待しない、看護師も看護の魅力を感じなくなっている現状が改めて理解できました。「楽しくなければ看護という仕事を全うできない、看護師よ手を使おう！て・あーての価値を広めよう」という川嶋先生の従来からの伝言が胸に響きます。それを継続的に組織的に実践している美須賀病院の看護実践も素晴らしいと思いました。看護もどきではなく「看護してます！」と今日も元気に言える看護職場を作っていくことが大切ですね。
- 現場の実情と看護のあるべき姿にある課題が明確となり自身でも整理することができました。触れるケアの重要性を現場で伝えられる管理者になっていきたいと思います。グループディスカッションでの中島先生の身体感覚言語で看護を伝え共有していくことという言葉がとても印象に残り、言葉でできている看護を意図的に伝えられるように明日から取り組んでいきたいと思います。
- 改めて看護とは何かを考え直す機会になりました。特に病院での看護は、入院期間の短縮化、医療・治療の高度化、高齢化、重症化、複数疾患を持つ患者など、多岐にわたることが看護にも要求されますが、それを看護師がすべてやらなくてやらない、と考えています。しかしできないので、出来ることしか視野に入れず、小さな看護になっている気がします。いわゆる「業務」という行為(診療補助行為、点滴、検査だし・など)にもそれがだた補助行為だと思つと、看護がない、となってしまうかもしれませんが、それを看護にする、という気概があれば、点滴交換も「看護」になるのだとも思います。そういう視点で、「業務」は「看護業務」で在り、それは看護にしていけるのが看護師なのだと思います。そういう視点で、同じ時間で、看護にしていける術を考えていくと、時間がないからできない、ということが減っていくのではないかと感じます。

- 発表の中で、大事だと思ったことは、ナース同志が語り合い、自分の行っていることを看護と認識できる機会を、職場や看護協会等の研修会などで定期的につけていくことだと思います。また、短時間で、対象者の心に近づいて、人間関係をつくっていく力を鍛えることも大事かと思っています。そういう研修も考えていければいいなと思います。(看護者が心を開いて人に接する能力？でしょうか)
- 「これは看護なのか？」と感じる場面に多く直面することが増えたように感じていたので、講演やグループディスカッションを通じて「看護もどき」の正体がわかり、腑に落ちた気がしました。看護もどきになる背景には、看護師個人の問題だけでなく施設や管理者の考え方も大きく依存していると感じました。それと同時に、看護師自身も、業務を行うなかで徐々に、自分が「何を大事にしたいか」を具現化することが難しくなっていることに気づくことができました。自分が看護を行う何を大切にしているのかを自問自答したり、振り返りをしながら看護を実践していきたいと思います。
- (今は辞めたので、現役の時の思いですが)私の看護観は、お酒に酔いながら看護に酔ってる先輩たちのナラティブを聞く中で培われてきました。しかし、看護の魅力を語ってくれていた先輩看護師は管理職になり人格が変わってしまいます。それ以外の先輩看護師は妊娠出産などのライフイベントなどで辞めていきます。MAXな夜勤回数にプラスして遅出勤務が入り、委員会活動などで休日出勤の日々、看護師のサーカリアリズムはぐちゃぐちゃです。生きるために仕事をしているのか、仕事のために生きているのかと違和感を抱きながら働いていました。20代、30代の若い人が80代、90代の先が短い方のために寿命を削っているという考えに行きつき、こんな考えで看護師をやっては駄目だと思って退職しました。病院の経営的な側面を考えると新人看護師で回した方が安いのかもかもしれませんが、中堅看護師が大事にされ、彼らが長く続けられる職場こそが看護もどきを無くすことにつながると思います。中堅看護師と呼ばれるほど仕事を続けてる方たちこそ、看護の魅力を下の学年に伝えることができると思います。(伝える方法が間違ってる方がたまに居ますが、、、)その世代の心さえ掴んでいれば、彼らは自然と“よりよい看護とはなにか”を考えはじめると思います。考え始めるように仕掛けを作って意図的に関わらなきゃいけないんじゃないかと思います。指示されるから、やられるから嫌になる。新人看護師が辞めないための工夫は私たち中堅看護師が考えるから、中堅看護師が辞めない工夫を管理職の方が考えてくれたらいいのになと思っていました。
- いろいろ疲れて看護師を辞めましたが、闘わなければいけなかったんだなっと思いました。中堅が管理職がと言わず、全ての看護師が患者さんに、看護に、自分自身に、自分の人生にもっと真剣に本気で向き合う必要があるんだと思いました。もう一度臨床に戻るので、次はもう少し踏ん張ってみようと思いました。
- 看護師になった時、日本と県の看護協会にほぼ強制で加入させられますが、未来塾こそ強制加入させたらいいと思います！
- 私は学部4年生なのですが、これから現場に出て行くにあたって、とても面白く参考になる学びができました。私が実習などで見てきた看護師さんは皆、患者さんの目を見ないか、見ても一瞬だけの方ばかりでした。バイタル測定の際もパソコンを見ながら事務的に聞くのみで、清拭やおむつ交換や体交の全てにおいて患者さんとじっと目を合わせてコミュニケーションを取る機会が無かったように思います。以前行った「かるがも実習」で、色んな患者さんに名前を覚えて貰っていて、訪室を喜んで貰っている看護師さんについてあります。その看護師さんは点滴の交換やバイタル1つでも患者さんの目をじっと見て話し、事務的な会話以外の雑談をして、患者さんの元でよく声を上げて笑う方でした。今回の勉強会で、私が不勉強なこともあります。様々な難しいお話しや意見を聞いたのですが、いきなり大きな事を始めるのは難しくても「患者さんの目を見る」ということは始めやすいのでは無いかと思います。その看護師さんは、他の看護師さんと同じくらいの人数の患者さんを受け持ち、バイタル測定で受け持ちの患者さんと雑談しているにも関わらず、他の看護師さんと殆ど同じ時間に全員の測定を終えていたのでとても印象に残っています。意識している事について観察したり直接質問したのですが「病棟を1周するだけで全員を見れるように全部準備してからナースステーションを出る

ようにしている」と話しており、学生の時に何度も言われた基礎的なことである物品の準備を徹底していることも大事なのだとその時学びました。また、患者さんの顔を見て、しっかり話す事で、短時間の会話でも患者さんにとって安心感を与えることが出来るのではないかと思います。また、授業では「患者さんと対等な立場である」と学ぶのに、実際は対等と感じている患者さんはそう多くないのでは無いかと思います。実習で長く患者さんと話すうちに「カーテンを最後まで閉めてくれない看護師さんがいるけど、お世話して貰ってるのにそんなことで呼ぶのは申し訳ない」と聞いたことがあります。他の患者さんと話しているときも「申し訳ない」や「看護師さんは忙しそうだから」という言葉を何度も聞きました。グループの中でも出たのですが、病室にいきなり人が入ってくることや、(清拭や聴診のため)服を脱いで貰うことは本来普通ではありえない環境だと思います。それが当たり前になり日々の業務に追われて仕事の効率を目指す中で、その人を尊重しニーズを満たしその人らしさを守るためのケアから、「患者さんのために((最低限の必要な)ケアをしてあげる)」の感覚に陥りやすいのかなと思いました。「病棟は閉鎖空間」という意見もありましたが、患者の家族や世間から見えにくい環境のなかで、看護師や患者さんを守っていくために、もっと透明化したり声を上げていく必要があるのだなと思いました。様々なお話を聞いて、私も実際に働き始めると、この気持ちを忘れてしまったり流されてしまうのかなと今回考えました。出すぎる杭は打たれない、と話して下さった方が居ましたが、私も出すぎる杭を目指していこうと思います。

- 未来塾でのディスカッションはとても勉強になり、納得しました。ここでの考えをさらに、すすめていくために、私はどうしていけばよいか、考えさせられました。どうすれば、社会が変わるのでしょうか。看護協会の理事をめざせばよいのか、議員を目指せばよいのか、内布先生がおっしゃっていた、個人ではできないことを実際に動かしていきたい場合、具体的に何を目標していけばよいのかと思いました。

Q15 今後の勉強会に関して、ご要望などございますか

- 特定行為についての是非
- 参加者の方から積極的に意見が発表されるとよいと思いました。
- 今日、課題として内布先生がおっしゃっていた事柄について取り上げていただきたいです。
- Q14とも関連しますが、〇〇ができない理由、のような具体的な問題をテーマにして、臨床から意見をもらえる機会や研究結果の紹介、あるいは解決にむかうスキーム、運動を起こしていくというようなアクションにつながる勉強会があっても良いのかと思います。また、看護職が声を上げない集団になっている理由、柔順過ぎる理由なども追求してみると興味深いように思います。
- 同じ話題で、対象を絞った会はいかがでしょう。CNSと未来塾の偉い先生方のみなど。”
- 臨床の様々な方のリアルな意見を幅広く聞いてみたいです。